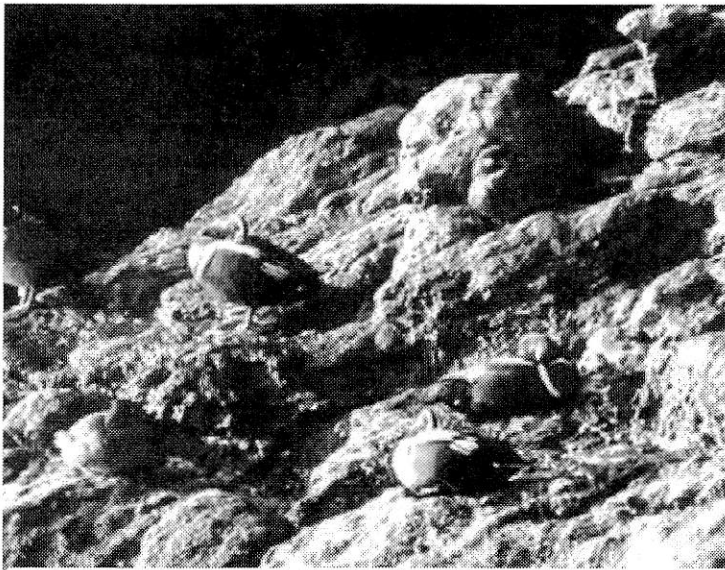


# 協議会ニュース 104号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2006. 1

## 謹賀新年



### シノリガモ

自宅から徒歩 5 分のところに一色の磯がある。生物部の生徒と「初日の出」を見ながら、シノリガモ、クロガモ等の観察をして来た。岩には「くじら岩」とか「だいとう島」と名前がついていたと 80 の母が言う。誰かが継承しなければならない。

・協議会創立25周年記念事業報告	齋竹善行	.....P2
・真指導員歓迎会に参加して	田中美保子	.....P4
・新加入員紹介		.....P5
・野外研修会「陸貝の同定」報告	吉田彰	.....P8
・自然観察会 ～ スタッフになろう ～	近藤記巳子	.....P9
・「豊かな自然セレクション 100」	高橋康夫	.....P10
・理事会だより		.....P11
・事務局だより		.....P11
・編集部だより・行事予定 他		.....P12

## 協議会創立 25 周年記念事業

11 月 23 日の午後から、なごやボランティア・NPO センターの研修室において、当協議会の 25 周年記念事業が開催されました。案内チラシの配布が遅れ、事前の参加申し込みが少なく、どれくらい参加するか心配していましたが、80 名の出席がありました。有意義な講演会となりましたので、当日の概要を紹介します。

尾張支部 齋竹善行

### 開会挨拶



中西会長から、25 年は四半世紀というくらいで、協議会は世紀で数えられる程の長きにわたって、県内で自然観察会を開いたり自然保護に携わってきており、この 25 周年を契機にいっそう活動の充実を図っていきたい旨の挨拶がありました。

### スタンプラリーの結果報告

担当の山田理事から、10 回で 293 名が参加したが、広報が十分でなく、一般から広く参加とはならず、もう一つの狙いの会員の交流もメンバーが限られてしまった、期間が短い、回数が限定されたなどの反省点

があるとの報告がされました。たくさん参加した人に賞を出すことになっているので、スタンプを押した台紙を持ってきてもらえば、回数に応じて賞品を送るとの説明がされました。

### 基調講演「自然の中の危険と どう向き合い つきあうか」



ケガをされたにもかかわらず、腕に包帯を巻いて、痛々しい姿で駆けつけてくださった日本自然保護協会顧問で今日の講師の柴田敏隆氏は、地元三浦半島の観察会で、計画し下見をしたコースと違うコースをとったら、とたんに事故に遭ってしまったと

の反省の弁で、危機管理の重要性を訴えるところから話が始まりました。

愛知の協議会は設立 25 周年のお祝いを述べられるとともに、自然保護協会は設立から 51 年目になり、約 2 万人の自然観察指導員の登録が成されるに至っていることが紹介されました。

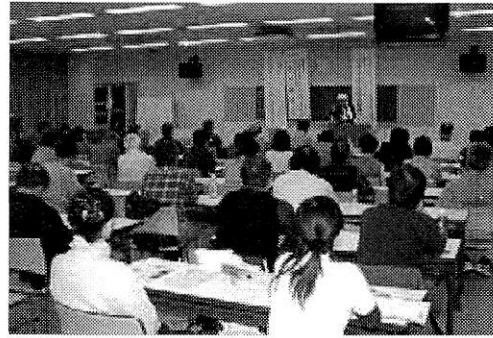
続いて、配布された 2 種類の資料をもとに、自然の中でどんな危険があるか、また、それにどう対処するかということをお話されました。

その中で印象に残ったのは、①観察会の最初に、（参加者が聞く・聞かないは別にして）危険に関する注意を促すこと、地元消防などへ観察会実施の事前通告などをしておくと、事故が起こった場合でも過失相殺の可能性が高くなること、②SOS の出し

方、人工呼吸、心臓マッサージなどの救急法の習得などが必要であり、事故が起これば何より迅速な対応が求められるということでした。

後半は、スライドを使って具体的な事例で危機への対応方法が紹介されました。スズメバチに刺されないようにするためには、巣から5メートル以内に近づかないこと、手で急に振り払ったりすると興奮して攻撃してくるのでフリーズして刺激しないことが重要だと説明がありました。実際、子供たちとスズメバチを手にとらせても刺されない訓練をしているスライドを見せていただきました。そのほか、毒蛇、ヒルなどへの対応、崖や橋など危険な場所、木登りなどでの危険体験など、参考になるものがたくさんありました。観察会の参加者は、

リスクを体験して成長するものであり、そのために指導員が十分な注意を払って、いろいろな体験をさせていく必要があると言われました。



## パネルディスカッション「あなたならどうする？ 野外の危険と安全」

記念事業実行委員長の星野芳彦さんがコーディネータになって、当協議会の4名の会員から事故の事例や、事故を起こさないための経験が紹介されました。

平井直人さん（尾張支部）から、善師野で観察会をしていて参加者がスズメバチに刺された事故について、鬼頭弘さん（尾張支部）から、森林公園の観察会で誤って有毒なアブラギリの実を食べてしまったことが話されました。

また、梶野保光さん（東三河支部）から、定例観察会などでの危機管理について、権現の森・蔵王山、石巻山など個々の観察会ごとに危険要素の抽出とそのリスク回避策について実際に講じた対応策の紹介がされました。

松尾初さん（尾張支部）からは、春日井市の築水池での観察会において、危険とは思われなかった緩い斜面で62歳の参加者が滑って骨折した事例が紹介されました。

引き続きディスカッションでは、まず発表者と講師の柴田氏で発表事例を中心に意見交換が、続いてフロアを含めた質疑応答

が行われました。主な討論/質疑内容は次のようなものでした。①観察会ではキノコを食べてみたくなるが、誤って飲み込んで中毒することもある。怪我は保険で対応できるが、誤食には保険がきかないので注意が必要である。②観察会のときあらかじめ近くの救急病院の電話番号を携帯電話に登録しておくなどの準備が必要である。③スズメバチはその性質を知って行動すればそれほど怖くない。いきなり襲うことはなく最初に警告音を発するので、それを見逃さないようにする必要がある。なお、温暖化が進むと、成虫が越冬することもあると考えられるので、冬でも注意が必要になるかもしれない。④イネ科の植物にいた毒蜘蛛にかまれたが、そのようなクモが身近なところにいるのかという質問に対し、カバキコマチグモがいるので注意することが必要である。

基調講演、パネルディスカッションとも身近に起こりうる危険についての具体的な話で、これからの観察会の安全確保を考えるうえでたいへん有意義な記念事業でした。

## 展示

会場の周囲に各支部の観察会の様子などを紹介したパネルの展示が行われました。

## 新指導員歓迎会に参加して

名古屋支部 田中美保子

11月23日、なごやボランティア・NPOセンターで行われた、新指導員歓迎の研修会&交流会に参加させていただきました。「私が大切にしている自然のもの」を何かひとつ持参して下さいということでしたので、迷った末、アベマキで作ったフクロウと前日庭先で見つけたトックリバチの巣を持っていくことにしました。

当日は、新人10人を含む33人の会員が集まり、コーヒーとお菓子をいただきながら和やかな雰囲気の会となりました。

皆さんの持ち寄った名品・珍品の紹介をしたいと思います。

●オキナワウラジロガシの実：日本で一番大きなドングリ

●アマミヤマシギの羽：奄美大島だけで繁殖している鳥

●ウスタビガのマユ：鮮やかな緑色のマユ。糸で枝にしっかりぶら下がっています。

上部の両横を押すとパツクリと口が開き、財布のようです。

●オオウラジロノキの葉と実：葉の裏には白い綿毛が生え、実は小さなナシのようです。数の多い木ではなく、大切に守っているそうです。

●ヤママユのマユ：そっと外した葉の痕が、押し葉のようにくっきりと残っていました。

●ピーンオークの葉と実：ドングリの仲間では珍しく葉が深く切れ込んでいます。この木もカシノナガキイムシの被害を受けているそうです。

●アメフラシの産卵の写真：糸状の卵は途中で色が変わっています。産んだ直後のピンク色は鮮やかな黄色を経て褐色へと変化していくそうです。

●クジラの骨：海岸に漂着していたそうです。背骨の1部でしょうか？この日最大の品でした。

●小さな巻貝：虫眼鏡で見ると円筒形のネジみたいです。肉眼では見えない、この日最少の品です。

●アフリカの寄生バエの幼虫：アフリカから家人の足にくっついてはるばる旅してきたウジだそうです。

●世界のマツボックリ：大きさも形も様々なマツボックリ。種類の多さにびっくり！

●アベマキのフクロウ：アベマキにヤマイモの種子を顔とくちばしに見立てて貼り、目を描くだけ。殻斗がそのままフクロウの巣になります。

●トックリバチの巣（トックリの横側にドアのように穴が開いていました。）

最後に、午後からの講演会の講師である柴田先生から、マツボックリで作る作品の紹介がありました。クリスマスツリーとバードフィーダーの2点です。溶かしたヘッドにマツボックリをつけ、冷えて固まったものを日陰に下げると、シジュウカラやヤマガラがやってくるそうです。さっそく試してみようかと思っています。

初めて見聞きすることがたくさんあり、参加できてよかったと思います。時間のたつのが早く感じられる楽しい会でした。

お世話してくださった先輩指導員の皆様、どうもありがとうございました。



マツボックリの紹介風景

先号でもお伝えしましたように、この秋NACS-J自然観察指導員講習会を受講され、45名の方々が愛知県自然観察指導員連絡協議会に加入されました。

その新加入された皆さんから自己紹介をいただきましたので、紹介させていただきます。(なお、編集の都合上、今号と次号とに分けて掲載させていただきます。)

### 鬼頭 保 (名古屋支部)

子どもころの遊び場だったなごや東山の森が荒廃しています。

多少生活が自由になった今、元の里山に戻したいと思い、微力ですが貢献したいと森づくり作業や自然観察会に参加しています。

子々孫々。次世代に引き継ぐ手立てが必要と思い取り組んでいます。

私たちは里山を散策する人、あなた方は里山を守る人、私はゴミを捨てる人、あなたは拾う人……。私は野鳥を観るだけ、あなた方はその環境を維持・改善すること……。等々……。

一緒に里山復元に汗を流しましょう。

### 櫻井 玲子 (名古屋支部)

以前は主に植物に関心があり、新聞などで開催の情報を得て観察会に参加していました。現在、森林公園“野の花めぐり”のお手伝いで、園内の花を中心に参加者に見ていただいています。11月27日(日)庄内緑地ネイチャアフィーリングに参加しました。参加者とスタッフの人達とのふれ合いがとてもよくて、また行ってみようと思います。

「指導員」という名前はちょっと重過ぎますが、楽しい・嬉しい・驚いた・不思議? などなど、自分が感じたことを少しでも、人に伝える事が出来たらいいなと思います。皆様のご指導をよろしくお願いします。

### 杉本 利幸 (名古屋支部)

旅行に行くときは自然景勝地が一番と決めています。写真撮影が好きです、といっても最近ではレンズにカビが生えるという失敗をやってしまいました。

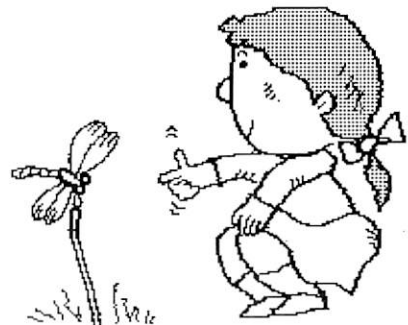
数年前までは長男のボーイスカウトにかこつけて、野外遊びもいろいろやった時期もありました。夏のキャンプに自然観察指導員の方に来ていただき、磯の観察会をやっていただいたことがあり、そのとき、子供たちもその父兄さんたちも夢中で参加していたことをよく覚えており、自然観察に惹かれるところがありました。

今まで気がつかなかった、見えなかった自然を写真に捉えてみたいと思っています。

写真や映像、観光で見る自然ではなく、もっと基本的なところから自然を知りたいと思っていましたが、講習会に参加できる機会に恵まれたため参加しました。

関心のある自然の分野は動物ですが、身近なところで昆虫です。

自然観察指導や自然環境教育のため、本に書いてないようなことの資料・材料(ネタ)作りがやれるといいと思います。





### 富安 卓也（東三河支部）

今回、皆様のお仲間に加えて頂いた富安といいます。よろしくお願いします。

特に活動らしい活動は今までしていないのですが、自分は趣味で昆虫採集をやっています。この昆虫採集こそが私なりの自然との関わりだと思っています。

昆虫であればどんな物でも好きですが、特に好きなのは蛾類です。最近では微小蛾（1cmに満たないような小さな蛾）にも興味を持ち、自分で標本を作ったりもしています。

ただ、このような微小蛾の標本を作るための展翅板といった道具は、今は専門店で扱ってないらしく、自作の間に合わせで、標本作りを嗜んでいます。もし詳しい方がおられたら、是非お教え頂きたいと思います。

自分はまだまだ未熟ですが、このような昆虫を通して活動に参加して行ければいいと思っています。

### 長谷川 紀男（名古屋支部）

現在活動している事は、「なごや東山森づくりの会」の会員で少しだけお手伝いをしています。

関心のある自然の分野は、特にありませんが子供達に、自然の仕組みや、恵みを教える事ができればいいなと思っています。

まだ自然に付いて、分らない事が多いので、いろいろな講習会があれば出来るだけ参加して教えて貰いたいと思います。

### 堀田信二（西三河支部）

西三河の堀田信二（ほったしんじ）といいます。このたび新しく指導員になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

昆虫や小動物、特に節足類に興味があります。蛇やかえるなども含めて昔の人はこれらをすべて「虫」と呼んでいたものでいつも「虫」が好きです、と答えています。地元のインタープリターとして子供たちと交流を深めて、「しんちゃん」と呼ばれて走り回っています。

また準絶滅危惧種のオオゴキブリとヒメタイコウチの飼育を担当しています。オオゴキブリなどは増えて増えて困るくらいです。ヒメタイコウチは昨年、産卵を確認したのですが、いつの間にか孵化してしまい大失敗！来年度は何とか、といった所です。

障害者ですのであまり無理が利きませんが頑張ります。

### 牧本直喜（東三河支部）

青年海外協力隊および JICA のプロジェクトの一員として、計 5 年間アフリカ・マラウイ共和国のマラウイ湖国立公園で過ごしました。この経験を踏まえ「Think Globally, Act Locally」の考えで、やはり足下を見つめる事が大切だと思い、結婚を契機に地元三河に戻り現在に至っています。小さい頃から近所の山や小川、田んぼで遊んできて、子供が生まれた事もあり、身近な環境について改めて様々に思いを巡らせています。

興味の対象は自然であれば何でもありますが、その中でも生態学を勉強してきたので生物同士や環境との関わりなどに特に興味があります。

現在一応愛知県職員ですが求職中の身で“30 代後半子持ち”となると思うように活動もできませんが、できるだけ積極的に活動していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

**松尾 由佳**（西三河支部）

皆様はじめまして。この度西三河支部に所属させて頂くことになりました、豊田市在住の松尾由佳と申します。

自然の中で生き物とふれあうのが好きで、その自然を守ることに繋がれば、と思い講習会に参加しました。

また、1年ほど前から豊田市自然観察の森のガイドボランティアグループに所属しています。主に両生類（特にカエル）・爬虫類（特にカメ）に興味がありますが、もちろん昆虫も植物も鳥も好きです。今はまだ自分がこれからどうしていきたいのかを考えている真っ最中です。まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願いします。

**永田 孝**（知多支部）

2年ほど前から知多自然観察会に在籍し、お世話になっております。

私自身、知多半島の中でも比較的多く自然が残っている美浜町に住んでいますので、暇さえあれば、近所の浜・磯・里山・野原をぶらぶらと歩き回り、自然観察をして楽しんでます。また、その結果をホームページ『美浜ぐらし』にアップしています。

海岸に打ち上げられた貝・骨や種子、野山の地面に落ちている果実や種子を見ると、拾わずにはいられない性分からして、私はどうやら採集民族の血が濃いようです。

**吉田孝三**（知多支部）

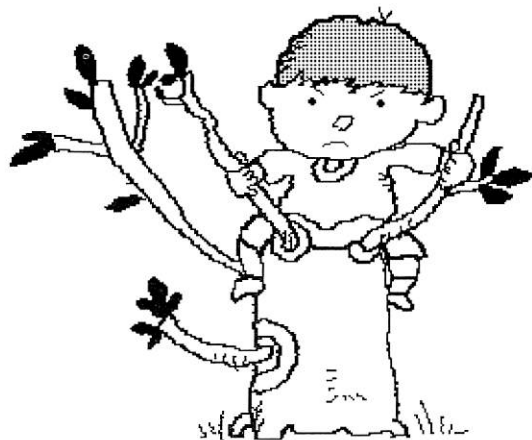
現在関心のある分野は自然全般です。しかし植物や動物、昆虫の名前も良く解らない状態です。現在は、知多美浜町で里山保全活動「内扇義朝の森」にてずっと活動？というよりも遊んでいます。里山の会に参加して活動の新聞を勝手に発行しています。毎月参加するたびごとに1枚ずつ発行しています。

そして今発行が43号になっています。知多自然観察会活動報告の中で写真などが掲載されることがあるので見られた方もあると思います。この会に参加して自然観察指導員の存在を知り勧誘を受け参加することにしました。自然観察指導員は幅の広い知識が必要と思い、里山に関する講座や環境教育などの講座を最近は何回受講しています。今後も里山をテーマに活動をしていければと思っています。

しかし、自然観察のためには少しは動植物の名前や自然形態や特徴を知らないと観察会での自然解説が出来ないと思っています。指導員講習の時に行ったミニ観察会計画書の様なネタ集が欲しいと思っています。もちろん自分で作成する事が重要ですが同じ観察でも切り口が違ふとこの様になるという見本みたいなネタ集があればと思っています。私みたいな本当には名前や植生などを知らない新人には良い指導書になると思います。

少しずつ長い活動にしていきたいと思っています。今後とも参加する観察会で少しずつでも知識を吸収できれば良いですが…

参加した観察会ではぜひ声をかけてください。



## 野外研修会「陸貝の同定」報告

西三河支部 吉田 彰

10月30日(日)熱田神宮において、中根吉夫先生を講師に野外研修会「陸貝の同定」が行われました。

当日の熱田神宮は、ちょうど七五三の頃で、多くの親子連れが行き交い、あちらこちらに警備員が立ち会うという状況でした。その中を、まるで不審者のような怪しい(?)人物たちが、参道脇の林の中に入り落ち葉の中などをあさるといふ、知らない人から見たら少し異様とも思える野外研修会となってしまいました。(実際何人もの人に声をかけられました。)

陸貝というと、俗にいうカタツムリ程度の知識しかない私にとって、今回の野外研修会は、厚く積もった落ち葉の下に、様々な種類の陸貝が生息していることを知ることができ、非常に刺激的なものでした。

特に、局所的にですが、落ち葉をかき分けると、まさにザクザク…という感じで生息していた「ナミコギセル」には驚かされました。

また、研修会後に種の同定ができた絶滅危惧種「ヒルゲンドルフマイマイ」について、豊橋市自然史博物館の知人に確認したところ「伊吹山系に比較的多く見られる種であるが、そこから遠く離れ隔離された熱田神宮の森で生息していることが不思議」なのだそうです。「熱田神宮の森の「ヒルゲンドルフマイマイ」は、分布域の縮小により孤島のように残されたものなのか、他の地域から偶然運ばれてきたものなのか。そして、どのような要素が熱田神宮の森の「ヒルゲンドルフマイマイ」の生息を可能にしているのか…。

実のところ、私は、絶滅危惧種という考え方が好きではありません。「ヒルゲ

ンドルフマイマイ」だけではありませんが、ある種の生物が永続的に生き続けていくには、その生物に適した生息環境が必要ですし、様々な生物の相関関係があって初めて種として存続していくものと考えています。絶滅危惧種という言葉だけが一人歩きをしまい、その種だけが大切で、その生物が生きている自然環境(もちろんその生物の餌や捕食者になる生き物をも含んだ)のことがなおざりにされているような気がしてしまうのです。

話が少しずれてしまいましたが、今回の熱田神宮の森の野外研修会で、私たちが分かっている自然が多いこと、そして自然の不思議さをあらためて実感することになりました。最後に反省点を上げさせていただきます。

- ・参加者のみなさん、できる限り参加する旨を主催者に連絡してください。(担当者の

大谷さんが、事前連絡をいただいたのは3名のみと嘆いていました。)

- ・観察地によっては、事前に申請が必要な場合があります。観察予定地になるべく早めに確認をとりましょう。(熱田神宮の場合は1週間前に申請が必要でした。)

中根先生ありがとうございました。そして、参加されたみなさんお疲れ様でした。

### <確認された陸貝>

エンスイガイ、ヒラマイマイ(イセノナミマイマイ)、オカチョウジガイ、ナミコギセル、アズキガイ、キビガイ(?), ヒルゲンドルフマイマイ



# 自然観察会

## ～ スタッフになろう！ & 伝え方のヒント ～

名古屋支部 近藤記巳子

### ■ はじめに

今回より自然観察会について6回にわたり連載をします。内容は、①スタッフについて ②伝え方のヒント の2本立てで書き進めていきます。

私は1991年より相生山緑地自然観察会（名古屋市天白区）を定例活動として毎月開催していますので、その実践活動のなかで感じたこと、考えたことなどを中心に紹介する予定です。

よろしくおつきあいください。

### ■ スタッフになろう！

愛知県では2年に一度、自然観察指導員講習会が開催され、その時期になると協議会には多数の新会員が加入。名簿にフィールドを取り巻く住所があると、さっそく会員に声をかけます。「観察会のスタッフとして一緒に活動しませんか」

快諾を得ることができれば、ラッキー！

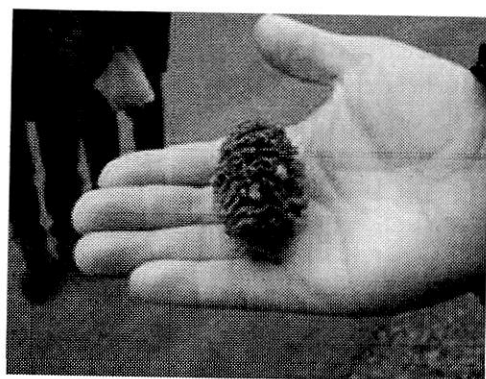
「指導員登録はしたが、観察会で話すほどの知識はありませんので・・・」と断られることもあります。

しかし、思い出してください、指導員講習会の最終日に、自ら探したテーマでカリキュラムを作成、自然観察指導を実習をしたことを。講習会では、時間の制約がありますから短時間で言うことになりますが、実際の自然観察会はそれらが複数重なって構成されると考えていいでしょう。

自然観察会の大多数は、午前中に実施されます。その時間枠のなかでたとえば5分間、自分の得意分野を活かして、参加者に話してみたいかがでしょう。あるいは当日のテーマにまつわる体験談もいいですね。

参加者に話すことで、気づくことも、また学ぶことも多いはずですよ。

自然観察会は、リーダー役だけで成り立ちません。受付、資料配布、安全確保等々、仕事はいくつもあります。それらをこなしながら、誰がどんな動きをしているのか、スタッフの観察もポイントですよ。



◇ 不思議な形のマツカサ発見！ ◇

### ■ 伝え方のヒント

～クイズで 会話のキャッチボール～

冬は、バード・ウォッチングにうってつけの季節です。

ある日の自然観察会でのことです。林縁部にマツカサが落ちているのに気づきました。鱗片の形が崩れています。当日のリーダー役のスタッフにそれを手渡ししながら小声で伝えます。

「これでクイズを・・・」

相手の表情と身振りで「OK」のサインを読み取ります。このあたりの呼吸は、長年スタッフとして関わりあっているからでしょう。

「みなさん、ちょっと私が手にしているものに注目してください。さて、これは何でしょう」

ただ無言で首をかしげる人、えっ～、何？とつぶやいてその後の言葉が続かない人……。一見しただけでは、マツカサと理解できない代物でした。その後、クイズの出題です。なぜマツカサとわからない状態だったのか、その理由を解き明かします。

正解は「鳥がマツの種子を食べたため」です。最初からこのことをただ伝えるだけでは、面白みに欠けますね。クイズ形式で伝えることで、参加者に考えてもらい、会話をしながら尚且つ楽しく自然のしくみを知ってもらうことも、観察会を盛り上げるひとつのヒントでしょう。

# 豊かな自然セクション100

## 荒波寄せる一色の磯

東三河支部 高橋康夫

所在地 田原市高松町

地図を開いて渥美半島を眺めて見よう。

太平洋に面する南の海岸線は、直線に近いなめらかな線を描いて東西へ伸びている。第四紀更新世に海底に堆積した地層が、その後隆起し、太平洋の荒波にけずり落とされて、一直線の海食崖となったものである。しかし、良く見ると、半島の中ほどがわずかに折れ曲がっているのに気づく。この折れ曲がりの地が「一色の磯」の岩礁群だ。



写真1 一色の磯

渥美半島の骨格をなす山々は主に中生代の硬い岩石からできている。山なみは田原市の北端こはじまり、所々に平地をはさみながら伊良湖岬まで連なっている。その山塊の一つが南へ張り出し、山すそが波に洗われて岩礁海岸となった所の一つが一色の磯である。

この磯は、沖に石像をいただく大岩礁、岸に岩山や岩塊が累々と積み重なり、チャートのごつごつしたシルエットに白く碎ける波しぶきが相まって、荒々しい風景を生み出している。チャートというのは、放散虫などの珪質の骨格を持つプランクトンが堆積してきた石英分の多いとても硬い岩石である。はるか遠い海洋底で、形成されたものが、プレ

ートの移動で大陸のふちに、押し付けられて陸化した「付加体」であると考えられている。以前、これらの岩石は「秩父古生層」と呼ばれていたが、近年になって微化石の研究が進むにつれ、中生代のものがほとんどだと言うことが分かってきて、「秩父帯」と呼び換えられている。

また、一色の磯の張り出しと三河湾側のへこみから、この間に断層があるのではないかという疑いが以前からもたれているが、証拠はまだ見つかっていない。が、三河地震を起こした深部断層の延長上にはほぼ一致することから、もしかしたらと思えなくもない。

磯の西は、長い砂浜が広がり、岸に寄せる波がサーフィンに最適だということで、いつからか「太平洋ロングビーチ」と名づけられ、全国からサーファーが訪れるようになった。大きな大会も持たれるようになっている。赤羽根漁港の突堤が砂をせき止める形となり、浜が広がり遠浅の海が形成されたようだ。



写真2 太平洋ロングビーチ

磯の東には高松海岸があり、その崖からは多種の貝化石が発見される。吹き寄せられた貝殻が集まる層や生息していた状態のままの化石など、堆積環境もわかるような貴重な場所であるが、道路の設置や護岸工事などで見やすい露頭は少なくなっている。国定公園内でもあり、崩れやすい崖でもあるので採集は控え、自然のままの自然の魅力を生かしたい。

## 理事会記録

2005年12月23日(金・休) 14:30~17:30

於 なごやボランティア・NPOセンター

出席者 鬼頭弘 松尾初 近藤記巳子 齋竹善行  
佐藤国彦 堀田守 滝田久憲 村上和彦  
降幡光宏 三田孝

議長 鬼頭弘

記録 近藤記巳子

### ◆議題

#### 1. 25周年記念事業の反省(含新人歓迎会&交流会)

- ・共に参加者が多く成功だったといえる。新人も気軽に発言できる雰囲気良かった。また、講演会は、テーマもゲストの話も良かった。
  - ・参加者数が把握できないのは、会場設定その他の準備からするとつらい部分がある。
  - ・誘えば参加しようという人もいるので、誘うことロコミも重要。
  - ・チラシの出来上がりとは支部報折込のタイミングが合わなかった。
  - ・準備が遅すぎたかも。1年は必要ではないか。
  - ・準備期間は4月からの半年でいいと思うが、回数が少なく十分に詰めができていなかった。
  - ・役割がきっちりできていなかった。⇒ 正・副のシステムも必要かも。
  - ・記録として、「協議会ニュース」、HPに掲載する。
2. 来年度事業計画及び予算について

#### ①HP アップ

②他県との交流会 ⇒ 「近畿・東海ブロック」順番となる三重県へ声かけ ⇒ 担当: 佐藤・堀田

③海岸植物群落調査研修会 ⇒ NACS-J(保護研究部海岸群落係)の企画にあわせる  
候補日時: 第1希望 5/14(土) 第2希望 5/28(日)  
候補地: 常滑市鬼崎海岸

④研修 ⇒ 研修担当者(大谷)に案の検討を依頼する 例「観察指導のネタ教えます」等

#### ⑤総会後の講演会

候補: 森下郁子氏 後藤氏(会員より推薦連絡)  
羽田氏等々 適任者に依頼する(事務局担当: 近藤)

以上、①~⑤を18年度事業計画として承認

※予算については、会計担当者出席のときとする。

#### 3. その他

①NACS-J から「市民参加の海岸植物群落調査研修会」開催協力依頼 ⇒ 研修として実施を承認  
研修のプログラム実施及び経費は全てNACS-J  
当日運営については、愛知県自然観察指導員連絡協議会がボランティアで手伝う。

#### ②愛知県環境部自然環境課から2件の依頼

イ. 外来生物生息情報などのアンケートのための  
会員名簿の提供

⇒ 個人情報のため提供は差し控え、チラシなどの呼びかけを「協議会ニュース」に折込みを承認

(ただし、期間・通信費などの確認)

ロ. 「第61回全国野鳥保護のつどい」開催のための  
実行委員会の委員検討について

⇒ 規約・役員名簿の提供の承認

③愛知県地球温暖化防止活動推進センターより、  
身近な「自然環境異変情報」通信員の募集及び  
登録依頼

⇒ 「協議会ニュース」に折込みの承認  
通信費・旅費などの経費を確認する。

④新たに会員名簿を作成。来年3月の総会で資料  
と一緒に会員名簿送付を承認。

(今秋10月に実施された指導員講習会で誕生  
した指導員のうち45名の加入者があったため)

尚、今後は指導員講習会後に会員名簿を作成  
(2年ごと)することを承認。



## ■ ML [自然観察] に登録を!

愛知県自然観察指導員連絡協議会では、会員の  
齋竹善行さんがメーリングリスト[自然観察]を  
立ち上げ、みなさんの情報交換の場を提供して  
いただいています。

生物暦を中心に、自然についてのさまざまな  
情報提供・話題提供がされています。

新たに協議会に加入された方が早くもML登  
録され、活発な情報提供・意見交換をスタート  
しています。希望の方は、齋竹さんの下記アド  
レスに連絡ください。

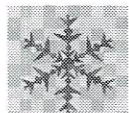
[BZA03620@nifty.ne.jp](mailto:BZA03620@nifty.ne.jp)

尚、このMLは協議会の活性化を目的に、齋竹  
さんが自主的に管理・運営されているものです。  
マナーを守って参加ください。

## ■連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は  
速やかに事務局までご連絡ください。

(事務局: 近藤)



## 行事予定



### 意見交流会

開催日時	場 所	企画・内容
1月29日 (日) 13:30~4:00	名古屋市公会堂 第4会議室 tel: 731-7191 (JR・地下鉄「鶴舞」・市 バス「鶴舞公園前」下車)	テーマ フェノロジー（生物気候学）について 会員の情報提供による「生物暦」や気象台の「生 物季節観測」のデータをもとに、気候変化に伴 う生物の活動の変化について意見交換を行いま す。

### 総会

3月21日 (火・祝日) 午後	あいち NPO 交流プラザ tel: 691-8100 (地下鉄「市役所」下車)	総会、講演会、懇親会を予定
-----------------------	--	---------------

### ＜編集部からのお知らせ・おことわり・おねがい＞

- ◎協議会ニュースの編集や発送を担当していただけるスタッフを募集しています。やっ  
てもいいよという方は、事務局までご連絡ください。
- ◎今月号から1年間、大羽康利さん（東三河支部）に表紙の写真と解説をお願いすること  
となりました。
- ◎研究会報告や新人紹介の原稿をいただきながら、紙面の関係でまだ掲載してないものが  
ありますが、次号に掲載を予定していますのでご了承ください。
- ◎県内のエコスポット 100カ所を紹介する「自然セレクション 100」を各支部に順次お  
願いしていますので、まだ紹介されていない尾張、知多支部は準備をお願いします。
- ◎みなさまのご意見・ご感想、自然観察に関連する原稿をお寄せください。  
(送付先 下記編集部又は E-mail: BZA03620@nifty.ne.jp)  
なお、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承  
ください。

### 編集後記

先号で近藤さんから過分なご紹介をいただきました永田です。この頃めっきり寒くな  
り、外に出るのも辛くなってきましたが、漂着物を愛する私は編集作業の暇を見つけて  
は、寒風吹きすさぶ浜へと出かけております。何ととっても海の荒れる冬は、漂着物も  
多くてビーチコーミングには良い季節です。みなさんも夏の海ばかりではなく、冬の海  
に出かけてみてはいかがでしょうか？ただし、お風邪を召されませんよう、防寒対策は万全  
に！ （永田）

表紙写真&説明：「シノリガモ」

大羽 康利

編集スタッフ

岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹 善行、

永田 孝、古川 俊江、苅川 真弓、

松尾 初、横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒445-0863

西尾市葵町44 苅川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460